

ブロックローテーションの導入と基本技術の励行で高位安定生産を実現

農事組合法人 都鳥

岩手県奥州市

設立年月 平成27年3月

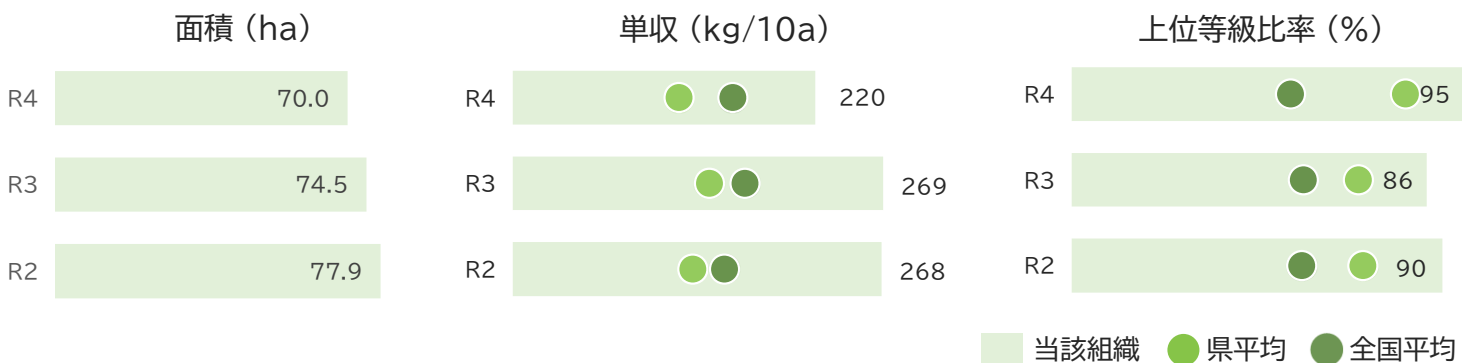
構成農家 180戸（オペレーター13人）

基幹作物 水稻177ha、大豆70ha(リュウホウ)(R4)

特徴 基盤整備事業を契機に6集落からなる集落営農組織が設立され、H27に法人化。
経営面積は約250haで、ブロックローテーションで水稻・大豆両方で安定生産。

大豆生産状況

単収・上位等級比率は県平均を上回る



栽培上の特色

- 水系毎のブロックローテーションを導入し、大豆の団地化を進めることで隣接ほ場からの漏水を軽減。湿害が軽減され、収量が向上。
- 耕起(深耕と碎土)の精度を上げるよう構成員へ徹底指導し、出芽率の向上等を図っている。
- コンバイン収穫時の汚粒発生を軽減するため、オペレーターに刈高を意識統一させている。
- 法人役員、オペレーターがそれぞれ作業スケジュールの把握と確認を行っており、JA等の指導を受けてすぐに対応できる体制とし、適期防除等につなげている。
- 土壌診断に基づいた肥培管理を行っている。

経営上の特色

- 連作障害による減収を防ぐため、地区を3つに分けて大豆1年－水稻2年のブロックローテーションを導入。
- 令和4年度に大豆乾燥調製施設を整備・稼働。乾燥調製に係る外部委託費を削減するとともに法人内雇用につながった。
- 作業の進捗状況を把握するため、日報記入や地図への書込みより「見える化」を図っている。

販売・消費拡大への取組

- 需要の見込まれる「リュウホウ」を系統出荷で安定供給している。